

視 察 報 告 書

報告者氏名 小田桐 たかし 印

1 委員会名

議会運営委員会

2 期 間

平成29年1月23日（月）～平成29年1月24日（火）

3 視察都市等及び視察項目

(1) 三重県四日市市

予算・決算常任委員会の設置と審査について

(2) 三重県鳥羽市

ア 議会改革の取り組みについて（ランキング第2位からのその後の取り組み）

イ 議会図書室の充実（各図書館との連携、独自の検索システム、個人の調査
検索スペースの確保）

4 所感等

■四日市市

議会改革では先進議会の取り組みを拝見し、一番強く感じたことは、議会が持つ様々な権能を活かしているし、大小あるとはいえ、活かそうという気概を会派を超えた議員同士が共有していると思われた。

しかし、一般質問及び答弁時間が一人30分間しかないことは、本会議での一般質問の位置づけがずいぶん低いと考える。これは、議会全体での取り組みを優先するあまり、議員個人の取り組みにきつい制約をかけているのではないかと思われる。また、思想信条の違い等から、少数意見を排除するシステムになっていないことを願う。

予算・決算の審査は、特別委員会ではなく、常任委員会での議論をしていることは、専門分野の掘り下げというメリットはあるものの、行政全体像が見えなくなる恐れもあるし、税金の使い方・集め方、政策の優先順位と市民の願いとのギャップ等、議会の役目が十分果たせるのか、疑問を持つものだった。

議会報告会や議会モニター、議案への意見募集など先進的な取り組みを本市議会でも導入できるかどうかは、十分な検証が必要だと思われる。

■鳥羽市

島々を抱え、市の面積100キロを超えた自治体で、人口が2万人を切るなかで議会・議員の様々な取り組みを聞き、感銘を受けた。

本市議会も含め、これまで全国で行われた議会「改革」の形は外部機関が決めた形や順位付けしたい調査項目に合わせた「改革」になっていたのではないかと考える。あらためて議会の改革には、最終的な『形』はなく、その自治体のその時代の状況を勘案した改革が常々行われているものだと考える。

そのためには、議会を構成する議員一人一人がどれほど謙虚で、議員同士でリスペクトしながら活動をおこなえるかになるのではないだろうか。なれ合いでも、敵対し合うわけではなく、個々の考えを率直に聞き合い、まとめられる調整能力の培い合うことは自然発生的にも、また4年ごとに選挙があり、かつメンバーが変わることからも、難しさが残る。そのために、議会事務局の体制強化・継続性・専門的知見を高めていただくことが欠かせない。さらには、遠回りと思われることでも「2元代表性の高まりが、自治体運営にも健全な行政執行にも欠かせないという民主的な研修」や「もめ事を避け、議員に媚びるのではなく、市職員は対等に対応することで議員の成長すすめ、議会の権能を高める研修」なども面白いと思われる。

ただし、市議選を無投票にしないために定数を2名切り下げたことで、その後の4年間、様々な議論が停滞しないことを願う。